# 「兵庫津における明治初期地籍図の復元と歴史的なまちづくり資源に関する研究」

神戸大学　大学院工学研究科　建築学専攻　山口　秀文

## １　研究の背景と目的

本研究は、歴史的なまちづくり資源の掘り起こしのために、近代の都市開発以前の明治期の地籍図の復元とその空間的社会的特徴を明らかにした上で、現代のまちとの関連を分析・考察し、歴史的資源を活かしたまちづくりに資する知見を得ることを目的とする。対象は兵庫県神戸市兵庫区の兵庫津と言われる歴史的に特徴のある地域である。この地域は、奈良時代の大輪田泊から、平清盛による日宋貿易の拠点、戦国時代の兵庫城築城、江戸時代から明治にかけての北前船寄港地・兵庫津として栄えた。さらに、明治以後の近代の開発とともに工場地域となり栄えるも、1945 年の神戸大空襲により兵庫津としての物的環境が破壊された。戦後、戦災復興を経て、高度経済成長以降、工場地域としての衰退から、特に兵庫運河を中心としたまちづくりが展開されてきた。その中で、地元では、よみがえる兵庫津連絡協議会、兵庫津日本遺産を目指す会（2018 年、兵庫津日本遺産の会に改称）が組織され、2018 年に北前船寄港地として日本遺産に認定、2021 年 11 月に兵庫津ミュージアム・初代県庁館、2022 年 11 月には、同・ひょうごはじまりが開館し、「兵庫津」としてのまちづくりの機運が盛り上がりつつある地域である。

## ２　研究方法・研究内容

本研究は以下の４つの段階を経て実施する。なお、①と②は並行して行う。

**①明治初期地籍図の復元**

・地籍図・旧土地台帳から、現存する 1910(明治 43)年の兵庫津の地図（地籍図ベース）と所有者のわかる地図を作成する（各町および兵庫津全体合成地図）。その地図土地台帳が整備された 1889(明治 22)年の土地所有を知れる旧土地台帳から、1889 年と 1910 年の 2 時点での土地所有の実態と動向を明らかにする。

**②オーラルヒストリー調査**

・戦前及び戦後直後の様子を記憶している住民・元住民を対象とし、当時、すなわち戦災で焼失する前の兵庫津の様子を聞き取る。並行して行なっている①明治初期地籍図の復元で作成している地図も参照しがら聞き取りすることで、明治期地籍図復元図からだけでは読み取れない情報を入手し、③及び④の分析・考察に利用する。

**③明治初期地籍図復元図の空間的社会的特徴**

・空間的特徴：街路、水系、地割の構成

・社会的特徴：共有地、公共施設、名主や有力商人・起業家、寺社等の土地所有者の土地所有の特徴

・空間的社会的特徴：上記の空間的特徴と社会的特徴を合わせて分析・考察する。

**④明治初期地籍図復元図と現代の兵庫津との関連と歴史的まちづくり資源**

・明治初期地籍図復元図と現代の地図（地形図及び住宅地図）の比較と、②オーラルヒストリーの情報、既往研究や地域資料（神戸開港三十年史や神戸市史など）から、両者の関連を分析・考察する。さらに、現代の兵庫津に潜在的に存在する歴史的なまちづくり資源を掘り起こし、まちづくりに資する知見を得る。

## ３　研究成果

本研究の成果は以下の４つと１つの課題にまとめられる。

**①1910(明治 43)年の兵庫津地籍図復元図の作成**

まずは、各町ごとにまとめられていた地積図を兵庫津全体の都市空間として認識できる地積復元図としたことに意義がある。図１はその地籍図復元作業とそのプロセスを示したものであり、図２は兵庫津全体に統合した地籍図復元図である。

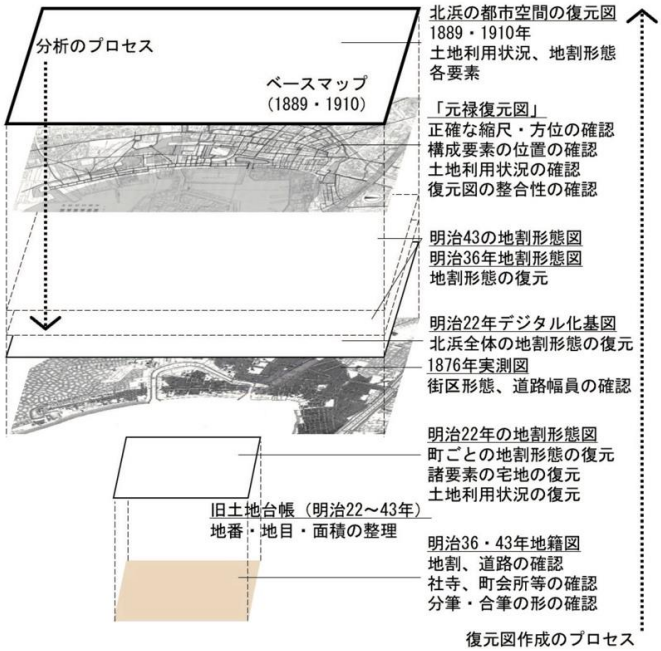
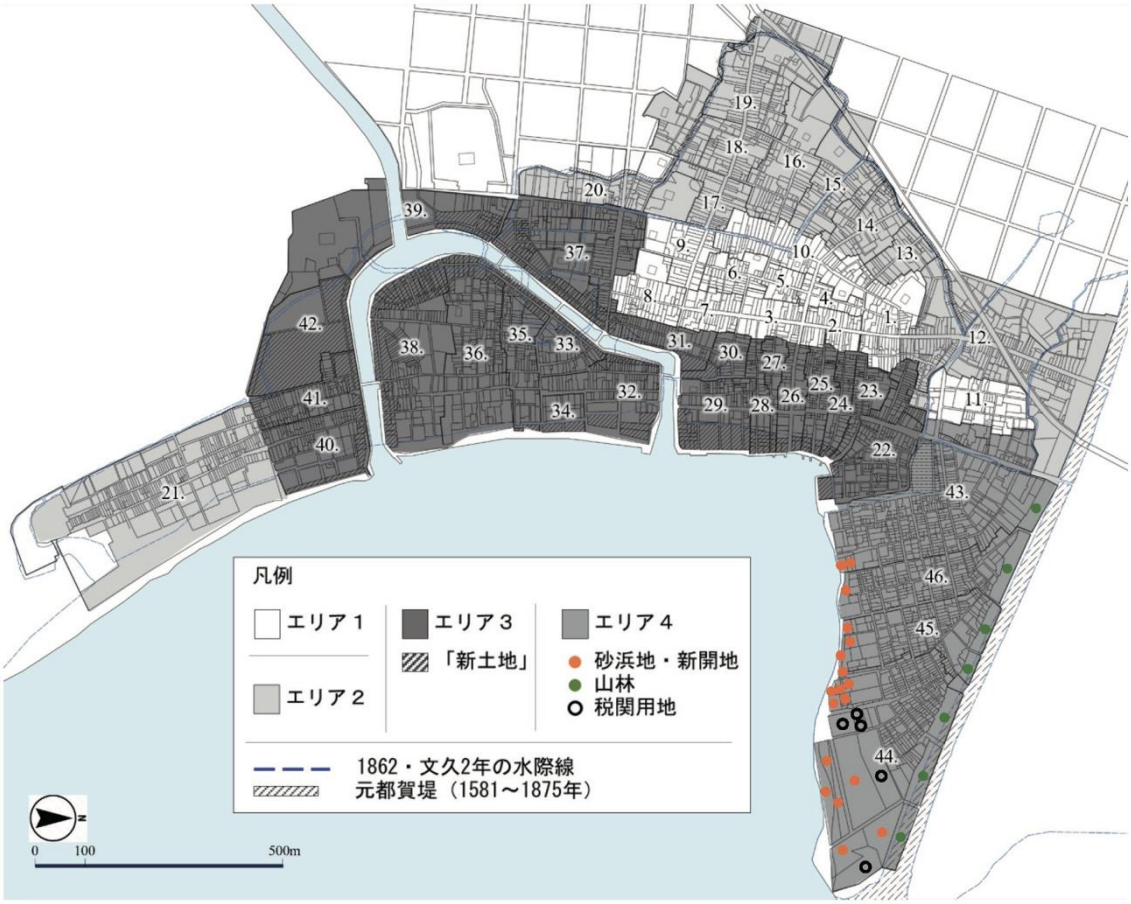



図１　兵庫津地籍図復元作業とプロセス




エリア１：地割維持、エリア２：地割変化、
エリア３：新川運河開削(1876)時の拡張、エリア４：1889 年以降の拡張
図２　兵庫津の 1910(明治 43)年地積復元図と明治期の土地開発と地割の維持・変化・拡張
（研究成果(3)より、復元図：陳鋮（神戸大学大学院）作成）

**②新川運河開削に伴う運河沿岸地・海岸埋立地における明治期の土地所有の実態**

1889(明治 22)年時点および 1910(明治 43)年の新川運河沿岸地・海岸埋立地の土地所有の実態を明らかにした。1889 年の土地所有者は兵庫津や他地域の資産家・大地主といった商人層に集中しており、学校や銀行、各々の会社設立により兵庫津の地域経済と都市近代化に影響力が大きかったものであった。具体的には在住地主としては神田兵右衛門や北風荘右衛門、川西清兵衛などであり、不在地主としては、酒造業を営んだ御影の嘉納治郎右衛門や伊丹の西新右衛門、神戸市の実業家・小寺泰次郎などである。

**③オーラルヒストリーによる生活面での歴史的資源の掘り起こし**

これまでに行った、I 氏(ヒアリング時 91 歳)、K 氏(同 86 歳)、O 氏(同 91 歳)、T 氏(同 82 歳) M1 氏(同 81 歳) M2 氏(同 80 歳)へのヒアリング調査の分析より、戦前の兵庫津での生活の一端が明らかになり、それらが生活を基盤とした歴史的資源となりうることを提示した。具体的には、新川運河を中心とした職住の生活展開、柳原の西国街道および西宮内町の商店街（現、古湊線）を中心とした生活展開、七宮神社の祭礼行事と地域との結びつきや地域の重要な場所の発見である。また、調査を通して、兵庫津に自らのルーツを探しに訪れる地域外の方々にも会うことができた。これらの人のルーツを地道に読み解いていくことは、本研究の歴史的資源の顕在化の研究と実践の両面を示している。

**④地籍図を用いた歴史的資源の顕在化とその方法**

土地所有の空間的側面を示した地籍図と社会的側面を示した旧土地台帳、オーラルヒストリーという住民の記憶を重ね合わせることにより、災害や戦災により主に物的な歴史的資源を消失した地域において、土地の場所性や生活、街路や地形、地割などの具体的な空間と社会、生活などからなる歴史的資源を顕在化させる可能性を提示できた。

具体的には、以下である。

(1)兵庫津の中で、図 2 に示したように町の変遷・開発の歴史的経緯が、地割・街路形態に端的に現れており、それが現代にもの受け継がれていること。

(2)兵庫津における著名な豪商・実業家・政治家・文化人の生家・所有土地の現代地図上での特定がある。例えば、椿井弥右衛門（近世の岡方名主)、神戸兵右衛門（近世の南浜名主、元神戸市議会議長)・北風荘右衛門（近世の北浜名主)・川西清兵衛（日本毛織創始者、川西財閥創始者)、池永通（元神戸市議会議長)・孟（美術品蒐集家)、東山魁夷（画家）などである。

(3)点在した歴史的資源の掘り起こしは、一定程度可能であることがわかった。しかし、面的につなぎ「兵庫津」としてのまちづくりに活かすには、これを兵庫津の空間的・社会的成り立ち、つまり空間構造の中に位置付ける必要がある。本研究で、面的な展開の中心として、かつて築島船入江・兵庫城（勤番所)、大手通が位置した現在の新川運河に囲まれた現在神戸市中央市場、イオンモール神戸南、兵庫県立兵庫津ミュージアムが集中する中之島 1 丁目 2 丁目周辺を今後どのように開発・整備していくかが重要になると考察した。兵庫県立兵庫津ミュージアムを中心とした周辺の空地や運河・寺社と連携した土地利用、西国街道と新川運河繋ぐ建築計画の必要性を提案した。

(4)歴史的資源の顕在化の方法

一度、消失した物的な歴史的資源を有した地域において、地籍図・旧土地台帳による土地に込められた空間と社会を読み取り、それを地域の空間構造の中に位置付け、現在のまちづくりや開発に活用する方法を提起した。

**⑤今後の課題**

本研究における課題は以下の 3 つある。
①1910(明治)年地積図の復元、1953(昭和 28)年の史跡図資料の発見、2025(令和 7)年の地籍図（公図）のパソコン上での合成を行った。主に 1910 年の地積図復元図を分析対象としたが、本研究の過程で 1953 年、2025 年の地積図を収集した。ここには、近代以降の開発と近代初期の土地所有の履歴の跡が見られる。この分析は今後の課題である。
②オーラルヒストリーで得られた生活面での歴史的資源をどのようにまちづくりに活かしていくかも引き続き課題である。

## ４　生活や産業への貢献および波及効果

兵庫津日本遺産の会・(一社）よみがえる兵庫津連絡協議会、兵庫県立兵庫津ミュージアム、神戸市立神戸市文書館という、地元自治会、地元事業者（民間)、兵庫県、神戸市の 4 者の研究協力を得て、ヒアリングおよび資料収集を行えた。これにより得られた関係が､歴史的資源を活かしたまちづくりに貢献できると考える｡一例としては、2025 年 2 月 9 日に兵庫県立兵庫津ミュージアムで行われた、(一社）よみがえる兵庫津連絡協議会・兵庫漁協協同組合主催、兵庫運河を美しくする会・兵庫運河真珠貝プロジェクト・兵庫津日本遺産の会・兵庫県立兵庫津ミュージアム共催の「兵庫津の未来を探るシンポジウム」である。ここで、筆者は「兵庫津の近世・近代と“今”と未来―歴史的資源を活かしたまちづくりに向けて―」と題した基調講演を行った。ここでは、研究成果をもとに、兵庫県立ミュージアムと今後移転される神戸中央冷蔵跡地を中心とした兵庫津を″象徴″する景観の現代における想像と西国街道と兵庫運河を接続することによる食の拠点の創造を提案した。研究成果をどのようにまちづくりに活かしていくかはまだ途上であるが、本研究により、自治会・民間事業者・兵庫県・神戸市・専門家が協働する素地がつくられつつあり少しずつ前進していると考えられる。今後は、それをさらに進展させることが課題である。

## ５　研究成果（学術論文、基調講演、展示）

(1)学術論文　陳鋮・山口秀文、明治期における兵庫津の都市空間の復元とその特徴に関する研究―兵庫津・北浜の地籍図と旧土地台帳の分析を通じて― 、日本建築学会計画系論文集、90(828)、pp.213-219、2025年2月
(2)学術論文　陳鋮・山口秀文、明治期都市開発における兵庫津の復元地割図と土地所有実態に関する研究―新川運河周辺における地籍図・旧土地台帳を中心とした分析を通じて―、日本建築学会計画系論文集、89(821)、pp.1275-1282、2024年7月
(3)学術論文　Cheng Chen, Hidefumi Yamaguchi, Analysis of the urban structure transformation by changes in land use patterns of Hyogo-no-tsu during the Meiji period- Through analysis of cadastral map and old cadastre -, Proceedings of the 14th International Symposium on Architectural Interchanges in Asia 2024.9
（明治期における兵庫津の土地の利用形態の変化からみる都市構造の転換-地籍図・旧土地台帳を中心として分析を通じて-、第14回アジアの建築交流国際シンポジウム論文集）
(2)基調講演　1件
山口秀文、兵庫津の近世・近代と“今”と未来―歴史的資源を活かしたまちづくりに向けて―、(一社）よみがえる兵庫津連絡協議会・兵庫漁業協同組合主催、兵庫津の未来を探るシンポジウム 、基調講演、2025.2.9、於：兵庫県立兵庫津ミュージアム
(3)展示　1件
山口秀文・陳鋮・呂鋒盛、江戸時代を映す明治・大正・昭和戦前の兵庫津、兵庫県立兵庫津ミュージアム秋季企画展「イワシとニシンと兵庫津の商人―江戸時代、サカナは肥料だった―」でのパネル展示、2024/10/12～12/8、於：兵庫県立兵庫津ミュージアム